2010 年度　関西学院初等部　学校評価を終えて

関西学院では、2007 年の学校教育法改正を契機として、2008 年度より初等部・中学部・高等部が互いに連携をとりながら各学校の学校評価（以下、自己点検・評価）を行うことを決めました。

初等部は 2008 年４月に開校し、三年目の歩みを終えようとしております。草創期であるが故になおさら客観的な評価を受けながら、さらにより良い教育活動を行っていきたいと考えております。
それぞれの学校がアンケートしました共通の項目は、「教育課程・学習指導」「生活指導」「安全管理」の３項目です。
初等部独自の項目として、「研修（資質向上の取組）」「情報提供」「保健管理」「キリスト教主義教育」を加えて児童・保護者・教員に実施いたしました。

回答いただきましたアンケートの結果を集計、分析したものを参考に自己点検・評価結果をまとめ、今年度は教育学部教員、中学部長、高等部長、評価情報分析室教員による学校関係者評価を受けました。自己点検・評価、学校関係者評価、その評価を受けての追加記述までが関西学院評価推進委員会（2011 年 3 月 25 日）において承認されましたのでホームページ上で公表いたします。

初等部では自己点検・評価によって浮き彫りになった課題に真摯に向き合い、教職員でその課題を共有し、具体的に改善を図ってまいります。またその改善を社会に公表することによって学校への信頼を高めていく所存です。

次項以降に 2010 年度初等部の自己点検・評価結果、学校関係者評価、学校関係者評価を受けての追加記述を項目別にまとめたものを記しました。

2011 年 3 月 26 日

関西学院初等部
部長　磯貝　暁成

学校評価シート

【教育課程・学習指導】

現状の説明

本年度もこれまで同様、初等部教育構想に基づくシラバスを作成して、教育活動を展開している。授業者は、日々シラバスを確認しながら、計画的に授業を行っている。教員同士で頻繁に授業公開したり児童の学びの姿をもとに批評しあったりして、授業力の向上に努めている。児童の学力は、学校で共通に設定している評価規準により把握し、学期末には通知書で連絡している。また、音楽や図工の学習の成果は、文化祭で、子ども、保護者、教職員が共有できるようにしている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

教育課程・学習指導については、教員・保護者・児童のいずれからも全体的に高い評価を得ている。

「学校は基礎学力が定着する授業を行っているか」という「学習内容の定着」に関する質問に、88%の保護者から肯定的な回答が寄せられた。シラバスを確実に実施している点が評価されている。一方「学校は、基礎的学習だけでなく、発展的な学習も取り入れながら授業を行っているか」という質問に対しての肯定的回答は 85%で、基礎学力に比べ多少評価が低い。

「学校は楽しくわかりやすい授業をするために工夫をしているか」という「授業の工夫」に関する質問に対しては、保護者の 90%が肯定的な理解を示している。同様の質問に対して教員も 91%が肯定的に回答している。「尊重しあい、学びあう学校をつくる」をテーマとした校内授業研修会が充実し、日々の授業を工夫しようとする雰囲気が教員間で高まってきたことが要因として考えられる。

「児童の学力把握に努めているか」という質問に対して、100%の教員が肯定的な回答をしているのに対して、保護者の肯定的な回答は 86%であった。教員が全校共通の評価規準で的確に評価していると考えている一方、その評価手続きが具体的に保護者に多少伝わっていない面があると考えられる。

芸術文化活動に関する質問については、肯定的回答が、児童 93%、保護者 88%となり、非常に高い評価を得ている。日々の授業、そしてその成果を発表する場としての文化祭が認められている。

授業に関する児童の回答はほとんどの質問で肯定的回答が 90%を超えているが、「自分から調べたり考えたりすることが多いか」という質問だけは、76%と他に比べ低い。児童の主体性が発揮される授業展開が求められる。

改善の具体的方策

基礎的学習と発展的学習のバランスがとれた新シラバスを作成する。

校内授業研究会を、今後ますます活性化し、授業力向上に努める。その際、児童の主体的活動を引き出す支援について検討する。

引き続き評価規準をもとに的確に評価し通知書で連絡する。ただし、保護者に対して、教育講座や個人懇談会などで繰り返し評価方法を具体的に説明する。また、通知書に加えて、ホームページなどで、継続的に児童の成長の様子を保護者に伝えていく。

学校関係者による評価

○教育課程・学習指導に関しては、初等部全体でシラバスを基にして計画的な授業の実施や授業の工夫などきめ細かで教科の特性に合った計画と実践をめざしている点が評価でき

ます。そうしたことは例えば通知書の構成や「評価・分析」にも見られる芸術文化活動に関する文言などから読み取ることができます。また、個々の教員も「尊重しあい、学びあう学校をつくる」をテーマにした授業研究会に参加し、自らの授業改善や児童の学力把握などに前向きに取り組んでいる様子はよく伝わってきます。

「児童の学力把握」のアンケート結果に見られるような教員と保護者の受け止めのずれや回答の選択肢「どちらかといえばそう思う」の比率の意味するところなどを検討していくことで、今後、教育課程・学習指導の一層の充実が図れると思われます。

さらに学習指導や支援における「個」の視点を大切にし、児童や保護者に「受け止められる」評価や伝達のあり方のさらなる工夫が期待されます。

○初等部教育構想に基づくシラバスを作成し、教育活動を展開していることは高く評価できます。今後、シラバスの質の一層の向上を期待します。

初等部の通知書は、「いいところみつけ」や「学期のふりかえり（自己評価）」など内容にいろいろ工夫が見られ高く評価できます。

ところで、児童の学力を向上させるには、教員の指導力を高めていく必要があります。そのためには「尊重しあい、学びあう学校」という現在のテーマを継続し、児童一人ひとりが、自ら課題をもち、主体的に追究し、確かな力をつけていくためにはどのような指導が望まれるのか、具体的な指導場面などを採り上げながら、指導方法や評価等の在り方についての研究を学校全体で深めていくことが必要と思われます。

また、児童一人ひとりの学習意欲と学力を高めていくためにも習熟度に応じた指導の在り方について検討していく必要があると思われます。

○しっかりしたシラバスに基づいて、すべての初等部教員が授業に臨んでいること、及び教員同士でのお互いの授業公開をきちんと行っていることは、非常に高く評価できる点だと思います。授業のわかりやすさは、教員の仕事の中でも一番大切な部分ですが、そのことが児童生徒に伝わっているのが良いと思います。やがて高学年になるにしたがって、特に調べ学習のあり方が、上級生や中学生での学習方法において大切になるので、これからも5年生が6年生に進級してゆく過程の中で大切にして欲しい部分です。

○初等部教育構想に基づくシラバスのもとに、教育活動を展開していることは、大変評価できます。

その流れは、「教育課程・学習指導」のアンケートから見ることができます。教職員用の質問「シラバスによる計画的な授業を行い、児童にその内容を定着させている」の平均点3.1からも、教職員の努力を評価できます。しかし今後ますます、この努力を続け、初等部の「教育課程・学習指導」が向上されることを望みます。

○適切に点検評価が行われ、改善の方策も具体的です。

○全教科・全学年に渡るシラバス、それも教師用・保護者用に作成されていることに敬意を表します。

○「評価手続きが具体的に保護者に多少伝わっていない面があると考えられる」とのことですが、保護者用のシラバスには「評価観点」の記載がありますので、これに加えて評価基準を示す事も方策ではと思われます。

○児童の主体性を示す項目が低いとのことですが、これは教育目標の 3 本柱の一つである「たくましい生き方」に通じる部分が弱いということになるかと思われます。この部分の改善に期待いたします。

○現状説明が物足りない感じです。ホームページで教育課程について明示しているという説明もありません。学外者がみても分かるような説明が必要でしょう。

○初等部教育構想について触れられていますが、もう少し説明が必要ではないでしょうか。また、シラバスという言葉は大学においては一般的ですが、小学校ではどうでしょうか。わかりやすく説明されてはどうでしょうか。

学校関係者による評価を受けての追加記述

初等部の教育構想は、教育理念「キリスト教主義に基づく全人教育による人間形成」を中心に、教育目標、めざす児童像、初等部聖句により構成されている。まさに、初等部教育の骨組みである。すべての教科のシラバスが、この教育構想を起点として作成されている。教育構想の詳細については、ホームページ、各教科のシラバス、通知書、パンフレットなどに明示している。

「尊重しあい、学びあう学校をつくる」をテーマにした校内研修会が本格化してきた今、授業における子どもの姿をもとに、指導のあり方を学校全体で深め、指導力向上に努めたい。その際は、子どもの主体性が発揮された学習になっているかを十分に検討する。「やらされる学習」ではなく「やる学習」を数多く積み重ねることが、教育目標の一つ「キリスト教の教えにもとづくたくましい生き方の育成」につながっていく。

学習についての子ども一人ひとりの良さや課題を今以上に具体的に伝える必要がある。学期末の通知書だけでなく、連絡帳などを積極的に活用して各家庭との日々のやりとりを充実させたい。また、評価手続きについては、教育講座、学級懇談、個人懇談などを通じて繰り返し説明する。なお、来年度は学校と各家庭との連携を一層深めるために、これまで行ってきた夏休み中の家庭訪問、12 月の個人懇談会に加え、５月にも個人懇談会を行うことにしている。

学校評価シート

【生活指導】

現状の説明

集団生活のルール・マナーを守ろうとする意識の向上については、全教員が強い意志を持って指導に臨んでいる。校内生活と校外生活の大きく二つに分けて指導体制を整えている。

校内生活においては、月目標設定、チャイムの遵守、遊びのルール、廊下階段の安全な歩行、思いやりのある言葉づかいの励行、本年度発足した安全委員会の児童活動とリンクして実施する「あいさつ・会釈運動」、持ち物・服装指導などで、基本的な生活習慣の確立を目指している。

校外生活の中心は安全な登下校に中心を置いている。宝塚駅からの登下校ルートに、登校時、警備員５名、同窓会宝塚支部のＯＢで編成する「スカイレンジャーズ」の方数名、ＰＴＡ３名が立ち、安全とルール・マナーを指導している。教員は通勤途上で車内指導、歩道上での指導を適宜実践している。

また、命の大切さや環境の保全などについてはチャペル講話や各教科の授業を通して指導している。「命を守る学習」と位置付けて交通安全教室と防犯教室を実施するとともに、火災・地震の避難訓練を実施している。

小さなトラブルなどが起きた場合、適宜保護者と連携を取りながら、子供同士の人間関係に配慮しつつ、担任、学年主任、生活指導担当、学事主任、副部長と説諭レベルを設定し、適切に指導している。

評価・分析（アンケート結果を含む）

「集団生活に関するルールやマナーについて適切に指導している」について保護者は89%が、また「命の大切さや環境の保全を学ばせている」については 96%が肯定的な回答を寄せている。全体指導はさることながら、各学級における丁寧な個人指導、担任外の適切な指導が交わって功を奏しているといえる。さらに、複数学級・学年にまたがる問題については学事委員会が中心になって指導の一元化を図っている。また、警備員と学事委員会が連絡を密にし、日々の警備報告を教員が回覧して翌日には問題行動を指導する体制をとって以来、問題行動の継続発生が目に見えて減ってきた。また、その指導状況も警備員にフィードバックしており、情報の共有という点で十分な連携が取れている。

これに対して「思いやりのある言葉づかいや挨拶の指導」は保護者の 83%、「子供同士の人間関係への配慮」については 77%が肯定的な回答を寄せるという結果となっている。これについては、昨年、今年とも肯定的な回答の割合が他に比べて低い学年が見受けられた。どの学年でも同様の指導を行っていることからすると、特定の要因があるのかもしれない。

改善の具体的方策

改善すべき点としては、やや低い肯定的回答があった「思いやりのある言葉づかい、挨拶の指導」である。挨拶については挨拶・会釈運動を来年度から学期に一回、強調週間を設け登校時に計画実施するとともに、児童の意識を高めるため「がんばりカード」を作成して指導のさらなる充実に努める。また、保護者来校時にその運動を実施することで、家庭への啓発も実施する。「思いやりのある言葉づかい」については、一年間を通して、こころの時間で継続して指導する体制を整える。もちろん各学級においても、校内のいろいろな場面でも適宜指導していくが、繰り返し指導する粘り強さをもってあたたかい言葉があふれる学校を目指して児童の意識を向上させる学級での指導を担任、専科教諭が行う。

「子供同士の人間関係への配慮」については、十分配慮して児童指導、保護者対応をしているつもりであり、学年会議や研修会を通じて、児童の情報の共有と児童理解に努めているが、より丁寧な指導を進めていく。

学校関係者による評価

○「現状の説明」に「集団生活のルール・マナーを守ろうとする意識の向上については、全教員が強い意志を持って指導に臨んでいる」とあることは、今日の社会においてとても大切なことだと思われます。校内生活・校外生活の両面でそうしたことが実施されていることは大変評価できます。校外生活では、全国的に、登下校時のマナーの悪さがよく問題になっています。今後も安全指導とともに、ルール・マナーの面の指導とそれを支えるこころの時間や日常的な生活指導が豊かに実施されると良いと思います。

○校内生活においては、担任のみならず担任外の教員や警備員など多くの目と情報交換を通して指導がなされること、また情報交換の体制や保護者との連携のシステムなどが考えられていることなどが評価できます。

○改善の具体的対象として取り上げられている「思いやりのある言葉づかいや挨拶の指導」「子ども同士の人間関係への配慮」は、いずれも集団生活を送る人間のもっとも基礎的なことであり、そのあり様は通底しています。その根底部分の耕しに資する指導の積み重ねが期待されます。特定学年の低い評価の要因も検討され、改善されることが期待されます。

○生活指導について、全教員が強い意志を持って取り組んでいることは、アンケート結果からもよくわかります。高く評価できます。
ただ、「子供同士の人間関係への配慮」については、やや否定的な回答も多いように思われます。このことから、教員一人ひとりが、児童の内面を把握理解し、それにふさわしい関わりが求められているように思われます。
児童の発達段階に関する基本的な認識を踏まえつつ、児童一人ひとりの実態に即した指導の在り方を学校全体で研究し、児童の情報の共有と児童理解に努め、より丁寧な指導を進めていく必要があります。

○私学の生徒たちにとって、特に登校マナーは指導を要する大事な点です。初等部の場合は、関学ＯＢや警備員の方が熱心に指導にあたってくださり、駅から学校まではしっかり登校できていると思います。また教員による駅での指導や車内指導の実践も高く評価できると思います。

○保護者にとって、子どもの学校での人間関係が大きな関心事項です。友人に恵まれて楽しく生活できているかどうかは、教員にとっても非常に神経を使う部分であるので、これからもしっかり配慮を怠らずに指導してゆくことが望まれます。

○集団生活でのルール、マナーを守ろうとする意識の向上に関して、全教員が強い意志を持って指導に望んでいることは評価できます。
それは教職員用のアンケート項目、「挨拶や時間厳守など、社会生活をする上での基本的なマナーが児童に身につくよう適切に指導している」の平均点 3.2 という結果からも評価することができます。しかし、今後これに満足することなく、教職員がますます充実した内容、結果になるようにしていく努力を期待したいと思います。

○児童用の項目、「誰にでも元気よく挨拶していますか」の平均点 3.5 は、非常に評価できます。児童の頃から挨拶の大切さを教え導く、この指導を今後も大切にしてください。

○質問 10、12 の回答に関し、「昨年、今年とも肯定的な回答の割合が他に比べて低い学年が見受けられた。どの学年でも同様の指導を行っていることからすると、特定の要因があるのかもしれない」とのことですが、具体的には昨年はどの学年で今年はどの学年なのでしょうか。例えば、昨年は 2 年で今年が 3 年なのか、昨年も今年も 3 年なのかによって意味合いが異なってくるかと思われます。ただし、見る限りご指摘のような傾向は判りませんでした。

○生活指導は保護者と連携して対応を図っていくことが肝要ではと思われますが、その辺りの取り組み状況はいかがでしょうか。さらにカウンセラーとの連携はいかがでしょうか。

○きめ細かな生活指導が窺えます。

学校関係者による評価を受けての追加記述

○「思いやりのある言葉づかいや挨拶の指導」「子ども同士の人間関係への配慮」について、特定学年の低い評価の要因も検討し、改善するようまず学事委員会で話し合う。

○「子供同士の人間関係への配慮」については、研修会を通して児童の情報の共有と児童理解に努めているところであるが、より丁寧な指導を進めていくようにするため、教師一人ひとりが児童の内面を把握理解し、それにふさわしいかかわりをさらに追求するよう努める。

○生活指導だけでなく本校では保護者と緊密に連絡を取り、連携して児童の指導にあたっている。今後ともその姿勢を続けていく。

○カウンセラーとの連携は良好である。しかし、勤務日が週あたり２日であるため、即対応が困難な面がある。また、丁寧で継続感のある対応を実施するにしては勤務日を増やしてほしいと切望するところである。

学校評価シート

【安全管理】

現状の説明

安全管理は、学校事故の緊急事態発生時の対応と、教職員・児童の安全対応能力の向上を図るための取り組みに分かれている。

今年度、学校事故による緊急事態発生時の対応は幸いなかった。また、学校を守る警備については常駐警備員２名の人的警備と機械警備による 24 時間完全監視体制が整ったセキュリティーシステムを採用している。その結果、これまで、児童・教員在校時の不詳人物による侵入は一度もない。夜間、酩酊した酔っ払いが侵入し、光テンションセンサーが作動、通報によってかけつけた警察官にグランドで取り押さえられる事案はあったが、建物への侵入はまだない。

教職員・児童の安全対応能力の向上を図るための取り組みについては、登下校の生命の安全を守ることをねらって警察と連携して交通安全指導を実施している。加えて、防犯教室や火災・台風・地震を想定した避難訓練も行っている。

なお、本年登校時における軽い被害事案が数件起きた。その都度、学事委員会のメンバーが発生場所に急行したり、事情を聴いて翌朝同時刻に現場へ行ったりして児童の安全確保と安心を担っている。保護者には時系列で説明し理解を得ている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

ハード、ソフト両面において強固なセキュリティーシステムを備えている初等部を 97%の保護者が肯定的に理解している。常駐警備員２名による人的警備体制をはじめとして、学校全体を守るシステムが満足の要因として挙げられる。

また、緊急事態発生時の保護者への迅速な連絡と適切な対応については 91%が肯定的に理解している。ホームページ画面での情報提供、一斉配信メールにより瞬時に連絡できるシステムがあることによって、必要な情報が必要な時に配信されることもこの結果につながっている。

登下校時の交通安全については 95%が肯定的に理解し、教職員・児童の安全対応能力の向上を図るための取り組みについては 92%が肯定的に理解している。これは、登下校時 92%の児童が通る「花の道」における 10 名以上の人的配置による安全確保がされていることと、校内での年間行事に位置付けられている各種防災訓練・避難訓練の実施が理解されていることによる。

さらに、初動体制を整え問題発生時に初期対応し家庭との連携を持って対応している点が高い評価につながっている。

改善の具体的方策

非常に高い数字に見られるとおり、初等部の安全管理については肯定的な受け止めをされているので、現在実施している方策を継続し充実させていく。緊急事態発生の場合は、さらに的確かつ迅速な対応をするとともに、児童・教職員の諸訓練がルーチーンワークにならないように緊張感を持って実施できるよう工夫する。

登下校時に見守りをしていただいているＰＴＡ、下校時も参加してくださることになったボランティアのスカイレンジャーズの方、安全確保を担っている警備員、そして教職員その四者間における情報共有と緊急事態発生時の対応方法の整理確認をさらに確実なものにし、指示系統の明確化と初動体制の連携を図る。

学校関係者による評価

○安全管理における、学校事故の緊急事態発生時の対応と、教職員・児童の安全対応能力の向上を図るための取り組み、の両面とも、他の一般的な小学校におけるそれに比べて優れていると思われます。それは初等部自体のハード・ソフト両面のセキュリティーシステムに端的に象徴されています。保護者へのアンケート結果にもそのことは表れています。
ただ、安全管理に対する準備はしすぎるということはないし、気のゆるみからそのシステムが崩れるということも考えられます。気をゆるめることなく、継続的に充実を図ることを望みます。
なお、初等部は通学範囲が広いので、最寄り駅以遠の自宅までの間における安全管理面の充実をどうするか、今後一層検討すべき課題かと思われます。
○学校の安全管理体制は、実にしっかりしていると思います。セキュリティシステムもすばらしいと思います。
今後も、さらに安全管理体制を充実させ、危機をいち早く発見して事件・事故の発生を未然に防ぎ、児童はもちろんのこと教職員の安全も確保すること（リスク・マネジメント）を望みます。
また、学校の危機管理マニュアルにそって、教職員一人ひとりの危機管理意識をさらに高めるための研修を実施していく必要があります。
学校外での安全指導については、なかなか困難な面もありますが、「安全のしおり」（既に作成しているかもしれませんが）などを作成活用し、児童に指導されることが必要です。
○初等部は安全管理に関して、充実した体制をとっていることが、高いポイントからも伺うことができます。完璧に近いセキュリティーの実施は非常に優れており、高く評価できます。定期的な防災訓練の実施に関しては、教員サイドからも今後もっと必要だと考えられているようなので、これからも頻度の高い訓練の実施が期待されます。
○学校での事故などの緊急事態発生時の対応能力、そして教職員、児童の安全対応能力の向上を図るための取り組みの二つが、着実にしっかりと行われていることを評価します。
またハード、ソフト面のセキュリティシステムを備えている初等部を97%の保護者が肯定的に理解していることは、同様に大きく評価できます。
今後とも児童、教職員の緊急事態発生時の対応、また安全対応能力の向上へ向けての努力を大切にして歩んでください。
○危機管理マニュアルの作成はなされているのでしょうか。各種防災訓練・避難訓練の実施が有効なことは言うまでもありませんが、例えば地震の場合、登下校時や電車での移動時など様々なケースを想定したマニュアル作りが必要ではと思います。
○防災備品の整備状況はいかがでしょうか。
○ＡＥＤの設置状況と訓練はどのようになされていますか。
○十分な安全管理を実施されています。

学校関係者による評価を受けての追加記述

○最寄り駅以遠の自宅までの間における安全管理面の充実については、開校当初より保護者の監督のもと安全確保するということを説明し了解されている。
○初等部においての訓練は一般的な学校と遜色のない程度実施してきた。頻度についても現在と同じ学期に一回で十分であろう。
○危機管理マニュアルの作成はまだである。「登下校時や電車での移動時など様々なケースを想定したマニュアル作りは必要である」とのことであるが、その規模、程度、範囲など想定ケースが多様であり、現段階ではなかなか難しい。
○防災備品の整備はない。また、ＡＥＤの設置はあるが訓練は未実施である。

学校評価シート

【研修】

現状の説明

今年度は昨年度に引き続いて研修テーマを「尊重しあい、学びあう学校をつくる」と設定し、研修を進めている。具体的には、全ての教員が担当教科を受け持ち、年度内に校内公開授業を２回、また、教科を３つの部会に分け、各部会で１名ずつが研修授業を行い、計３回の研修授業会（部会の授業検討会、事後の討議会を含む）を行っている。同時に、研修全体会を月に１回設定し、キリスト教研修会、児童理解のための報告会、学校生活上のコミュニケーション力向上研修会、外部講師を招いた指導力向上研修会、来年度施行の新学習指導要領対応研修会を行っている。

校外研修では兵庫県私立連合会の半日研修会や一日研修会、および、各教科での主任会に参加し、キリスト教学校同盟関西地区教員研修会にも全員が参加している。さらに、各個人が夏季休業中を中心に研修計画を立て、様々な研修会に参加し、さらに意欲的に研修を進めている。

また、キリスト教に関しては、すべての教員が「こころの時間」の説話を担当する際に、宗教主事と聖書の内容について詳細に準備をしたり、宿泊行事の準備段階でテーマとなる聖書の箇所について研修を深めたりすることができている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

アンケート結果からは、教職員の「授業研究をし、不断の努力をしている」という質問での肯定的回答が 59%→91%、「授業研究を通して、自身の授業力の向上に努めている」 が 71%→91%と授業研究について、昨年度に比べて数値が向上している。同様に保護者の「楽しく分かりやすい授業にするために工夫している」では 90%以上が授業の工夫について肯定的な回答をしており、児童の「授業はわかりやすいですか」でも 96%が肯定的な回答を得ており、満足のいくものである。

キリスト教に関する研修の成果として、教職員の「礼拝や研修を通してキリスト教主義教育の理念を共有する機会を設けている」では 18%→83%と昨年に比べて極めて大幅に向上した。しかし、教職員の「教員研修プログラムを設定し、教員相互の授業研究の機会を十分に提供している」については 59%→70%と数値が幾分良化したもののまだ満足できる値ではない。これは設問を①「教員研修プログラムを設定」と②「教員相互の授業研究の機会を十分に提供している」に分けて考えることができ、①については、１年ごとの計画に基づいて研修を進めてはいるが、全学年が揃っていない現状での中長期的な研修体制が整っておらず、具体的には「新規採用者および新任教員に対する研修」「中学部への進学や中学部との連携を踏まえた研修計画作成」が求められるということであり、②については現状を踏まえると公開授業の運営方法の課題と読み取ることができる。

今年度の研修テーマについての評価もアンケートから読み取れ、肯定的な回答が保護者の「子ども同士の人間関係に配慮しながら指導している」が 77%、児童の「思いやりのある友だちが多いですか」「相手の気持ちを考えて行動することができていますか」「心配ごとができたら、すぐに先生に相談できますか」がそれぞれ 80%、85%、44%という結果をみると、「尊重しあい、学びあう学校をつくる」ことに重きを置く必然性を感じ、今後もなお課題とする必要性が見て取れる。

改善の具体的方策

今年度の研修への取り組みに関しては、十分な成果を見ることができている。教職員の研修に対する意欲や関心は高く、成果も見られてきているので、このまま継続して研修を進められるような体制を確保していく。研修テーマも継続し、来年度は３年目として取り組み、

何らかの形にしてまとめていくことも踏まえて取り組んでいく。また、来年度で６学年の児童がすべて揃うこともあり、「学校をつくってきた」ことを価値づけて研修運営の基盤とする。
　また、校内だけの目線ではなく、校外からの視点も取り入れ、より柔軟により良く研修が進められるような配慮を怠らないようにする。「尊重しあい、学びあう学校をつくる」基礎はコミュニケーションや円滑な人間関係の維持である。教職員は児童、保護者、教職員、ＯＢなど全ての初等部に関わりのある人々との良好な関係の中で、日々の教育活動を進めていくことを再確認し、来年度へとつなげていくこととする。

学校関係者による評価

○初等部の基礎づくりをしていく中での教師の研修はなかなか大変なことと思います。そうした視点から見ると、アンケートに表れた教職員の意識・意欲も高く、保護者・児童の授業の工夫やわかりやすさに対する回答も肯定的なものが多いことを踏まえると、教職員の研修が徐々に進展しているように思えます。特に、システム的には次第に形を整えつつあると評価できます。
教員の研修は最終的には個々の教員の問題であることを考えれば、自己満足ではない、その内実の充実に向けた日常における不断の努力が必要です。「尊重しあい、学びあう学校をつくる」ためのシステムと教員個人の努力があいまって研修の成果が一層上がることが期待されます。
○研修テーマを「尊重しあい、学びあう学校をつくる」と設定し、校内公開授業や研修授業など数多く実施し学校全体で取り組んでいることは高く評価できます。このテーマもとてもすばらしいと思います。
また、「授業研究をし、不断の努力をしている」が 59%→91%、「授業研究を通して、自身の授業力の向上に努めている」が 71%→91%と昨年度に比べ数値が向上していることはとてもすばらしいことです。改善されてきているのがよくわかります。
今後は、指導力をさらに高めていくためには研修の質をどう高めていくかがとても重要です。研修の質を高めるための具体的方策が望まれます。
○教員の生命線である授業改善への意欲的な取り組みは、高く評価できます。研修を研修として終わらせることなく、次のステップに生かそうとしている点が、初等部教育全体のレベルアップにつながっていると思われるので、今後も続けて欲しいと思います。
○「尊重しあい、学びあう学校を作る」という研修テーマを設定し、今年度も校内公開授業、または各部会による研修授業を計３回実施し、教員個々の実力を発揮できる充実した取り組みをしていることを評価します。
その具体的な表れとして、「授業研究をし、不断の努力をしている」というアンケート項目の結果が昨年度 59%から今年度 91%にまで向上していると同時に、他の項目も同様に向上していることが評価できます。そして最も大切な項目の一つである、児童への「授業は分かりやすいですか」で 96%が肯定的な回答を得ていることを大きく評価したいと思います。今後とも持続的に努力することを期待しています。
○アンケート結果から十分に研修の成果が上がってきたことがうかがえます。さまざまな研修会を実施されておられますが、そこへの教職員の参加状況はどのようなものでしょうか。
また、職員の研修に対する記述が見受けられませんが、総務部主催の研修会以外で初等部独自の研修は実施されていないのでしょうか。
○人権に対する研修会は実施されてないのでしょうか。
○評価・分析では、「『新規採用者および新任教員に対する研修』『中学部への進学や中学部との連携を踏まえた研修計画作成』が求められる」とのことですが、そのことに対する「改

善の具体的方策」は無いのでしょうか。
○本項目においては、現状説明において実施回数を示されるなど分かりやすく記述されています。
○繁忙の中、数々の研修を実施されていることは評価できます。アンケート結果において肯定的な回答が増えていることは、努力の成果でしょう。
○改善の具体的方策において示されている「何らかの形」を具体的なものにする必要があります。また、「校外からの視点」は重要な視点かと思います。

学校関係者による評価を受けての追加記述

○さまざまな研修会への教職員の参加状況は、全体会には全員参加が必須としており、管理職を含め、毎回、ほぼ全員が参加している。授業研究会も大授業については、当該クラス以外の児童を下校させて、全員が出席できる体制を整えていたので、出席率はほぼ100%である。職員の研修は「研修全体会」として、毎月１回のペースで行っている。具体的には、校内では春季宗教週間のキリスト教研修、校内実践交流会（児童についての情報交流会）シラバスおよび新課程対応研修（全２回）を行い、校外には春・西日本研修会、夏季キリスト教学校同盟関西地区教員研修会、兵庫県私立小学校研修会、秋・西日本研修会に参加している。また、有志による「「教師力向上」プロジェクトメンバー（９名）」を構成し、校外の研究会にも積極的に参加するようにしてきた。
○今年度の人権に対する研修会は５月に行っている。内容は「日々の教育活動に関するケアすべき事象」として、在日外国人や障害者に対する理解、同和問題についての啓発、性差意識への意識向上などを取り上げた。特に、教育活動や保護者との対話の中での発言について意識を高めることに時間を割いた。これまでの経験や環境の違いで意識の差が見られたが、教職員の間での共通理解を図ることができた。
○「新規採用者および新任教員に対する研修」では来年度は新規採用３年までの教員を対象に授業、校務についての資質を高める「初任研修」を計画している。具体的には、研修で設定している教科ごとの主担当が適宜授業を参観し、助言を行ったり、各校務の主任から業務についての講義を行ったりといった研修を進めていく予定である。公立学校で行われているようなレポート形式を重視せず、校内単位での研修でもあるので、具体的な現場でよりよく活きるような力を伸ばす研修とする。「中学部への進学や中学部との連携を踏まえた研修計画作成」については、中学部の教職員との連携を強める試みとして、昨年末に中学部から来校してもらって情報を交流する会を持っている。初等部の立地が宝塚ということもあり、初等部の教員が中学部のことをあまりまだ理解できていない現状があるので、今後も交流を深めながら相互理解を図りたい。児童自身の関わりとしては、来年度初めて６年生が在籍することになるので、実態を把握しながら中学部での体験授業を計画している。
○改善の具体的方策として、初等部としての授業公開会を想定している。来年度で６学年がそろい、2012 年３月には卒業生を送り出すので、これまで初等部が目指し、進めてきた教育を世に示す機会を持つことで、初等部の教職員が改めて日々の実践を振り返り、研修や修養に取り組めると考える。と同時に、校外からの視点や示唆を受け入れる機会であるともとらえている。現在は開催の頻度を取り決めてはいないが、校内の研修体制と合わせて進めていくことを念頭に計画していく。

学校評価シート

【情報提供】

現状の説明

初等部では、保護者と学校が連携して共に児童を育てる「共育」を大切にしている。保護者と学校が「共育」を行うためには、保護者に対して学校の様々な情報を迅速かつ丁寧に提供することが大切だと考えている。

月に１度は保護者に実際に児童の生活の様子を見てもらえるように、毎月、授業参観を中心に、各行事への参加プログラムを提供している。

また各学年が毎月発行している「学年だより」、初等部ホームページ内の保護者のみがアクセス可能な「親子スクエア」などの媒体を通して、学校からのお知らせと共に、各学年も児童の学校生活の様子や、タイムリーな情報を保護者が受け取れることができるようにしている。加えて「一斉配信メール」「緊急連絡ページ」（携帯電話からもアクセス可能）のシステムを採用し、保護者に対して必要に応じて迅速に情報提供ができるようにしている。

受験希望者や一般の方々に対しては、初等部ホームページを通して、教育理念、カリキュラム等の基本的な学校情報と共に、初等部の教育活動をより丁寧に分かりやすく伝える努力をしている。特に全教員が担当している「きょうの初等部」は、毎日更新され、保護者を含め、一般の方々にも初等部の様々な教育活動をお知らせするページとなっている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

学校に関する様々な情報提供に関して、「学校は、保護者への情報公開を学年だよりやホームページ（親子スクエア等）を通して、適切にしているか」との質問には、学年により若干のばらつきが見られるが、全体では 85%の保護者が肯定的な回答をしている。親子スクエアの更新頻度の違いがその理由として考えられる。

また学校公開の実施の状況についても、「学校は、授業参観日を適度に設け、保護者に授業を公開しているか」との質問に対して 93%の保護者が肯定的な回答をし、「学校は、保護者に学校行事を公開し、児童の学校での様子をみてもらう機会をもっているか」との質問に対しては 94%の保護者が肯定的な回答をしている。これらは昨年度よりも肯定的な回答をしている割合が増加しており、授業や各行事への参加プログラムが保護者に一定の評価をしていただいていることが分かる。

ただ「学校行事は保護者に参加しやすいように、日程等が配慮されているか」との質問に関しては、肯定的な回答が 80%に留まった。体育祭や文化祭などの学校行事、授業参観の一部は土曜日に実施しているが、これらを日曜日に実施すれば、肯定的な回答が増加するのかもしれない。しかしながら、キリスト教主義学校である初等部において、聖日である日曜日に学校行事を行うことは学院の建学の精神からずれることにもなるため別の工夫が必要となる。

改善の具体的方策

保護者への情報提供は、どのような情報を保護者が求めているかという検討から始められなければならない。学校に寄せられる保護者からの声を集約し、必要な情報を迅速かつ丁寧に提供するシステムが必要である。具体的には、学年会、学年主任会、部長室会、教師会という流れの中で、保護者からの声を集約し、教員間で保護者のニーズを共有することが必要である。そのニーズをどう具体的に情報というかたちで提供していけるのかを検討していく。

学年だより、親子スクエアを通しての情報提供については、各学年の主体性に任されているところがある。特に親子スクエアに関しては学年ごとに更新頻度にばらつきがあるため、単純に更新頻度を増やすことで保護者の満足度は増加するのかもしれない。しかし大切なこ

とは、更新頻度だけではなく、そこにどのような情報を掲載するのか、その情報が保護者のニーズに合っているかの検討がやはり必要である。そのためにも保護者のニーズの把握に努めたい。

学校関係者による評価

○保護者と学校が連携して共に児童を育てるという「共育」の考え方は、家庭と学校との関係がよく問題になる今日においては、とても評価できることです。
初等部では「共育」が効果を上げるための情報提供がシステム化されており、「共育」が順調に進展しているように思われます。学校からの情報提供であれば情報の流れが一方通行になることはやむを得ないのですが、真の連携ということを考えれば、今後は情報が双方向にやりとりされるようなシステムや役割分担も必要になってくるように思われます。
○「評価・分析」にある、日曜日の行事開催の件については保護者からの情報提供などを生かした検討が良い解決策を生むかもしれません。検討することを期待します。
○保護者と学校が連携して共に児童を育てる「共育」を大切にするために、「学校だより」やホームページの媒体などを利用して、様々工夫を凝らしていることはとてもすばらしいことです。また「共育」という言葉は、とてもすばらしい言葉です。
今後、迅速かつ適切な情報提供ができるようさらに努力することを期待します。
○学校行事に多くの保護者が参加することは「共育」のためにもとても有意義なことです。今以上多くの保護者に参加していただくためにも、内容を含めた具体的な改善方策を期待します。
○保護者に対して、児童の学校生活の様子や学校の意図をうまく伝えられていると感じます。行事や授業の公開など、保護者とのつながりを大切にしていることは高く評価できるし、そのことが学校への信頼感と安心感を与えていると思われます。
○保護者と学校が共に児童を育てる「共育」を大切にして、その具体的な情報を提供していることを、次のアンケートから認識できます。
「学校は、保護者の情報公開を学年だよりやホームページを通じて、適切にしているか。」というアンケート項目の結果では、全体で 85% の保護者が肯定的に回答していることを評価します。今後とも迅速で、正確な情報を初等部に関わる全ての人たちに提供できるように、努力を継続していくことを望みます。
○全教員が担当している「きょうの初等部」は、写真もあり、そして毎日更新されていることは、初等部の情報提供の姿勢が表れていると思います。
○情報提供は誰に向かって行うのかという自問が必要で、保護者のニーズ把握に努めたいとする改善の具体的方策は重要な事です。初等部のステークホルダーは保護者だけに留まりませんので、様々なニーズの把握に努められることを期待いたします。
○情報の提供に関し、学校行事への保護者の参加は重要だと思われます。「日曜日問題」が示されておりますが、西南学院での「日曜日問題」に見られるように、建学の精神＝日曜（聖日）と定式化するかは悩ましいところだと思われます。
○数々の手立てを使って情報発信に努められています。
○ホームページにおいて、入試情報はその年度の案内だけが掲出されていますが、過去の入試結果を公表すべきではないでしょうか。

学校関係者による評価を受けての追加記述

学校の情報提供は、まずは保護者の方々のニーズに対応したものでなければならない。現状では、学校から保護者への情報は、担任を通して学校側にフィードバックされることが多く、その情報を学年主任会や部長室会などで共有し、課題を整理して学校として適切に対応

することがやはり大切だと考えている。また、ＰＴＡとの連携をより強化・充実し、保護者の方々からの率直な声を、ＰＴＡを通して聞かせていただくことが、より充実した情報提供につながっていくと考えている。

「共育」の視点から、保護者の方々に実際に学校へ足を運んでいただく機会を他の学校よりも多くもつよう努力している。2011 年度は６学年が揃い完成年度となるが、保護者の方々がより学校行事に関われる機会を提供していくことができるように、学校行事の内容充実はもちろん、休日の行事開催の件も含め、保護者のニーズを把握しながら検討していきたい。

学校評価シート

【保健管理】

現状の説明

１日の保健室利用者数は、平均約 25 名。来室理由は、全学年においておおよそ外科的理由：内科的理由＝７：３となっている。学年別の来室回数は３年生を頂点とした山型で、最も少ない５年生と比べるとその差は３倍近い。男女別では、全学年において女子の来室回数が男子を上回っている。擦り傷、打撲等の外科的理由により来室したことがある児童は 90%超、倦怠感、吐気等の内科的理由により来室したことがある児童は約 60%と、広く多くの児童に利用されている。また、来室回数の多い順で上位 15%の児童による来室回数が外科では全体の４割、内科では全体の５割を占める。更に、内科的理由での来室回数が上位に入る児童は、外科的理由での来室回数も上位に入る傾向があり、一部の児童にとって保健室との関わりは非常に大きい。

保健室では健康診断結果や保健調査票、行事前の健康調査、学期ごとの身体測定等により、児童の健康管理を行ない、必要な児童には通知や指導を行なっている。運営に関しては校医やカウンセラーとも連絡を取り、専門的な意見を仰ぐこともある。また、教育施設の一端として、保健の授業や保健だより、保健室や教室への掲示物、校内放送、個別対応等を通じて、児童の保健に関する意識や知識を高められるよう努めている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

ケガや病気が発生した際に家庭連絡が的確に行なわれているかについて、90%の保護者が肯定的な回答をしており、高い評価が得られた。ケガや病気の程度に応じて必要と判断された場合には、主に担任から保護者へ連絡が行なわれる。明白な場合を除くと、家庭連絡の有無や方法等が的確であったかどうかについては双方で考えが異なる場合があり、10%の保護者からは否定的な回答があったことも受け止めなければならない。今後とも教職員は一人ひとりの状況に応じて適切に判断する必要がある。

85%の保護者が「学校は子どもの心身の健康について相談できる環境を整えている」、91%の教職員が「学校は児童が抱えている様々な課題を受け止める体制を整えている」と肯定的な回答をしたのに対し、「心配事ができたらすぐに先生に相談できるか」の問いに対して、半数以上の児童が否定的な回答をした。「すぐに」という言葉を児童がどう理解したかという問題もあるが、児童が悩みを学級担任だけでなく、養護教諭、カウンセラーにも相談しやすい体制を整えていかなければならない。

改善の具体的方策

ケガや体調不良の時に利用する場所として、保健室は多く利用されている。保健室への来室回数や来室状況は心のバロメーターとなることがあり、保健室が悩みを持つ児童の早期発見の場所になる可能性は大きい。現状では、心の声を口に出さず来室で訴える児童を養護教諭が察するという場合がほとんどである。保健室はケガや体調不良の時に限らず、悩みがある時にも利用できる場所として児童が認識できるよう、改善していきたいと考える。保健室のみでなく、週２日開放されるカウンセリングルームも多くの児童によって利用されている。これらの環境をより効果的に機能させていくために、教員、養護教諭、カウンセラーの三者の連携強化はもちろん、保護者とも協力する必要がある。周囲を取り巻く大人の連携により、子どもたちに発生する問題の早期発見、早期解決を図りたい。

学校関係者による評価

○「評価・分析」や「改善の具体的方策」の内容から、保健室の大切な役割が十分に理解されて保健管理がなされていることが理解でき、そのありようは大変評価できます。「保健室登校」という言葉などもあるように、今日、小学校教育における保健室の役割はとても重要であり、児童一人ひとりの心身の様子だけでなく、学校の姿も見えてきます。「改善の具体策」にあるように、今後とも養護教諭を中心とした教員・カウンセラー・保護者の連携・協力が十分になされることを期待します。

○児童の健康管理を行う上で、養護教諭を中心とした健康教育の充実はとても大事なことです。今後も児童の健康管理のための体制と教育の充実に努められることを期待します。
特に、教員と養護教諭、カウンセラー等との連携はとても重要で、今後一層連携強化に努めていくことが望まれます。そして、児童にかかる保健・安全上の問題の早期発見、早期解決のためにも常に情報を共有し、努力をしていくことを期待します。

○児童の心身の健康管理については、きっちりと体制が組まれていると思います。体制はしっかりしているので、保護者にとってもそうですが、児童本人が気楽に心配事を打ち明けられる雰囲気を今後も大切にすることが期待されます。

○児童の心身における保健管理は、最も大切な学校の責任の一つです。評価シートからも分かるように、「怪我や病気が発生した際に、家庭連絡が適切に行われているか」について、90%の保護者が肯定的に回答していることは、評価できます。
しかし、特に「保健管理」についてはできる限り、100%の肯定的な回答が得られるように努力を続けることを心から願っています。

○適切に点検評価が行われていますが、改善の方策がやや抽象的です。保護者にとってもっとも関心の高い項目であると思われますので、検討が必要です。

○保健室の利用状況を詳細に把握しておられることは児童の健康管理上好ましいと思われます。当然対策を取られているかと思われますが、インフルエンザや食中毒に対する予防方法等も本項における評価対象になるのではないでしょうか。

○学年別の来室回数が３年生を頂点とした山型になるというのは初等部だけの固有の傾向でしょうか。それとも小学校における一般的な傾向なのでしょうか。いずれにしろ、その事は何を物語っているかの分析は必要ではないのでしょうか。

○丁寧な説明で保健管理の状況がよく分かります。

学校関係者による評価を受けての追加記述

○保健室で児童の異変を察知するのは多くの場合、保健室への来室が増えたり欠席が続いたりするなど、本人の中で問題が大きくなり身体的症状や行動となって現れた時である。受け身であると、自ら保健室やカウンセリングルームを利用することに抵抗感のある児童の早期発見は難しい。早い段階で気づいて対処するには、児童と毎日顔を合わせる保護者や授業を持つ教員との協力が必要である。まずは保護者、教員、養護教諭がそれぞれに児童の情報を積極的に交換することが大切である。その上でカウンセラーとも相談しながら児童にとって最善の方法をひとつひとつ検討していく作業が必要だと考える。

○インフルエンザなど感染症の流行状況は、公立小学校と同様に教育委員会から情報を得て、注意喚起や手洗い励行により予防に努めている。学内での流行が見られた場合は校医と相談して措置を検討し、保健所や教育委員会へ報告を行なっている。
食中毒については、調理実習の際は器具の消毒や滅菌、食材の取り扱いなど、担当教諭が予防に努めている。昼食に関しては、本校が弁当持参であることから特別な対策は立てていない。今後は注意喚起などを行なうよう検討する。
　加えて、宿泊行事では食物アレルギーによるアナフィラキシーの予防を養護教諭が中心

となり徹底しているが、予防と発生時の対応について、全ての教員が理解できるように努めたい。

〇保健室の利用頻度は、一般的に高学年より低学年の方が高く、高学年では内科的な訴えの割合が増える傾向にある。本校においてもその傾向は概ね当てはまっている。保健室の利用回数は単に怪我や病気の発生件数を表しているのではなく、個人や学年、学校の特徴が反映されている。これらのデータが意味することを考え、子どもたちを理解する上で有効に活用したい。

学校評価シート

【キリスト教主義教育】

現状の説明

初等部の教育の柱は、関西学院の建学の精神である「キリスト教主義による全人教育」である。その具体化のために初等部では特に礼拝を大切にしている。毎朝の礼拝（こころの時間)、昼食前の昼礼、下校前の終礼をはじめ、様々な宗教行事、聖書科授業を通して、聖書の様々な言葉を学び、目にみえない神の存在を心で感じられるようにしている。児童たちにそれらの機会を通して、キリスト教の精神、価値観を受け入れ、祈りの大切さや他者に対する思いやりの心を伝えている。

また、３年生から５年生までの児童がクラス単位で児童礼拝（児童が司会、お話し、お祈りを担当）を担当し、自分の生活上の様々な経験を聖書の言葉と結び付けて考えたり、“Mastery for Service”（社会と人のために自らを鍛える）の意味を自分なりに考え、他の児童に向けて話をしてくれている。宿泊行事においても聖書の学びは重要なプログラムとなっている

初等部の教育活動を担う教員たちを対象にしたキリスト教研修の実施、またキリスト教学校教育同盟の研修会にも全員が参加している。在校生保護者対象の「聖書講座」や新入生の保護者に対しても、入学前の２回のオリエンテーション、入学後のオリエンテーションで、初等部のキリスト教主義教育について説明をしている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

アンケートの結果を見てみると、89%の児童がこころの時間や聖書の学びが自分にとって大切であると回答しており、初等部が大切にしていることが、児童の生活の中で、こころの時間や聖書の学びが浸透してきていることが分かった。また保護者へのアンケートでは、「学校は、キリスト教主義教育の理念について、保護者と共有する機会を設けているか」との質問に対しては 91%が肯定的な回答をし、また「学校は、キリスト教主義に基づき、人を思いやる気持ちや態度を育てているか」との質問には保護者の 90%が肯定的な回答をしている。児童の回答率とほぼ同じとなっており、初等部のキリスト教主義教育が定着していることを表していると言えよう。しかしながら約 10%の児童、及び保護者が否定的な回答をしていることも忘れてはならず、その児童・保護者に対してどのようなアプローチをすべきかを考えていかなければならない。

また教員に対しての「学校は、礼拝や研修を通してキリスト教主義教育の理念を共有する機会を設けているか」との質問に対して、83%が肯定的な回答をしている。昨年度よりも肯定的な割合が増加している。来年度もキリスト教研修や礼拝はもちろん、キリスト教主義教育の理念を共有する機会を増やしていく必要がある。

改善の具体的方策

約 90%の児童・保護者が初等部のキリスト教主義教育を肯定的に受け止めているが、それに満足せず、関西学院が 120 年以上の長きにわたり大切にしてきた建学の精神を大切に伝え続ける努力をしていく。具体的には、何よりも毎日の礼拝を丁寧に守り続けていくこと。日々聖書の言葉を丁寧に語り、Mastery for Service の精神を様々な形で伝え続けていく。また各クラスでの昼礼・終礼・クラス礼拝を形式的なものにせず、ひとつひとつの礼拝を児童が大切に守れるような工夫をすることが大切である。その指導にあたる教員のキリスト教理解をさらに深めるための研修も今年度以上に必要である。

保護者のキリスト教主義教育への理解をさらに深めるためにも、聖書講座はもちろん、2011 年度は印刷物を通してもキリスト教主義教育に関わる情報を積極的に伝えていきたい。

学校関係者による評価

○「キリスト教主義による全人教育」は初等部の教育の柱であり、そのことの実現のための営みや心配りがしっかりとなされているように思います。今日のように心の問題を抱えた人々が多くいる時代、こうしたキリスト教主義の理念に支えられた心の教育が確かな見通しと信念の下に行なわれていることは大変評価できることです。

○「キリスト教主義による全人教育」はとても大切な教育であり、その教育の深化のための様々な努力は大変評価できます。
さらに、関学建学の精神をより深化、浸透させるためにも体験活動などを取り入れ、児童一人ひとりの具体的な生活の場や実践に生かせるよう指導を工夫していく必要があると思います。

○初等部では礼拝が毎朝きっちりと守られています。礼拝での学びの成果は、小学生時代の今よりも、子どもたちがこれから大人になったときに、その大切さがわかってくると思われます。全教員が参加しての毎日の礼拝の指導は本当に素晴らしく、生徒たちの歌声を聞くだけでも、礼拝の実践が高く評価できます。キリスト教に初めて触れる保護者に対しても、聖書講座や教育講座での学びの継続は、これからも大切になってくるのだろうと思われます。

○初等部の教育の柱は、関西学院の建学の精神である「キリスト教主義による全人教育」です。その具体化な柱として、「礼拝」を毎日行っていることは評価できます。そしてそのアンケートの結果、89%の児童が「こころの時間」（礼拝）や聖書の学びが自分にとって、大切であると回答していることも大きな評価の対象の一つです。
ところで、「改善の具体的方策」でも触れていますが、初等部の先生方のキリスト教理解がさらに深まること、そしてその努力を継続されることを心から願っています。

○児童礼拝は、児童にとって「たくましい生き方の育成」に必要かつ重要な自己表現の場として相応しい取り組みだと評価します。

○関西学院の根幹であるキリスト教主義教育を様々な形で伝えていく努力が窺えます。キリスト教主義教育の成果はすぐに形になって表れるものばかりではありませんので、継続した中長期的な調査が必要でしょう。いわゆるアウトカムにも注目してください。

学校関係者による評価を受けての追加記述

こころの時間をはじめとした各礼拝の時間や聖書科の授業のみならず、学級活動や委員会活動などにおいても、キリスト教の価値観を共有していくことが大切だと考えている。また児童の具体的な生活の中で、特に友だちや家族との関わり、また地域や社会の様々な課題にも目を向け、「社会と人々のために」自分は何ができるかをしっかりと考えられるようなプログラムや活動を今後取り入れていきたい。

学校関係者評価でも触れられていたように、キリスト教主義教育の成果はすぐに形になって表れるわけではなく、児童と向き合う教職員一人ひとりが、キリスト教主義教育への理解をさらに深めていくこと、そして児童の具体的な生活の中でキリスト教の価値観が生かされているような関わりを丁寧に続けていくことが必要である。

2010年度　学校評価アンケート結果一覧表（初等部）

共通／独自	大項目	小項目	目標	アンケート						選択肢（児童用）
				教職員用	平均点	保護者用	平均点	児童用	平均点	
共通	学校全般（追加項目）			—	—	1．子どもは、学校に行くのが楽しいと感じている。 2．初等部の教育には全体的に満足している。	3.6 3.2	1．学校は楽しいですか。	3.4	とても楽しい／楽しい／ あまり楽しくない／楽しくない
共通	1．教育課程・学習指導	(1) 児童の学力・体力の的確な把握	評価規準を設定し、それに基づく的確な評価を行う。	1．評価規準により、的確な評価を行っている。	3.2	—	—	—	—	—
			評価規準に基づき、的確に児童の学力を把握する。	2．児童の客観的な学力把握に努めている。	3.3	3．学校は、子どもの学力を把握している。	3.1	—	—	—
			運動能力テスト等を通して、児童の体力、運動能力を把握し、体力・運動能力の向上に資する。	3．児童の客観的な体力把握に努めている。	3.0	4．学校は、子どもの体力を把握している。	3.0	—	—	—
		(2) 各教科の特性に応じた授業への工夫と児童の興味・関心に応じた授業展開	基礎的、基本的な内容の定着、および発展的学習の展開のため6年一貫シラバスを作成し充実させる。	4．シラバスによる計画的な授業を行い、児童にその内容を定着させている。	3.1	5．学校は、基礎学力が定着する授業を行っている。 6．学校は、基礎的な学習だけでなく、発展的な学習も取り入れながら授業を行っている。	3.2 3.1	2．授業では、新しいことをたくさん知ることができますか。	3.3	とてもできる／できる／ あまりできない／できない
			魅力的な授業づくりのための工夫。	5．質の高い魅力的な授業のために、授業研究をなし、不断の努力をしている。	3.2	7．学校は、楽しく分かりやすい授業にするために工夫をしている。	3.2	3．授業はわかりやすいですか。 4．授業では、自分から調べたり、考えたりすることが多いですか。	3.4 2.9	とてもわかりやすい／わかりやすい／ わかりにくい／とてもわかりにくい とても多い／多い／ 少ない／ない
			授業研究会、交流授業を継続的に実施し、各教諭の授業力を向上させる。	6．授業研究を通して、自身の授業力の向上に努めている。	3.1	—	—	—	—	—
		(3) 芸術文化活動	様々な芸術のそれぞれのよさを見出すとともに、自分の願いをこめて、音楽作品、美術作品をつくりあげる喜びを感じ取る。	7．学校は、音楽、美術（図工）を中心とした芸術教育を通して、児童の豊かな感性を育成するよう努めている。	3.2	8．学校は、音楽、美術（図工）を中心とした芸術教育を通して、子どもの豊かな感性を育成している。	3.3	5．音楽や図工の授業は楽しいですか。	3.7	とても楽しい／楽しい／ あまり楽しくない／楽しくない

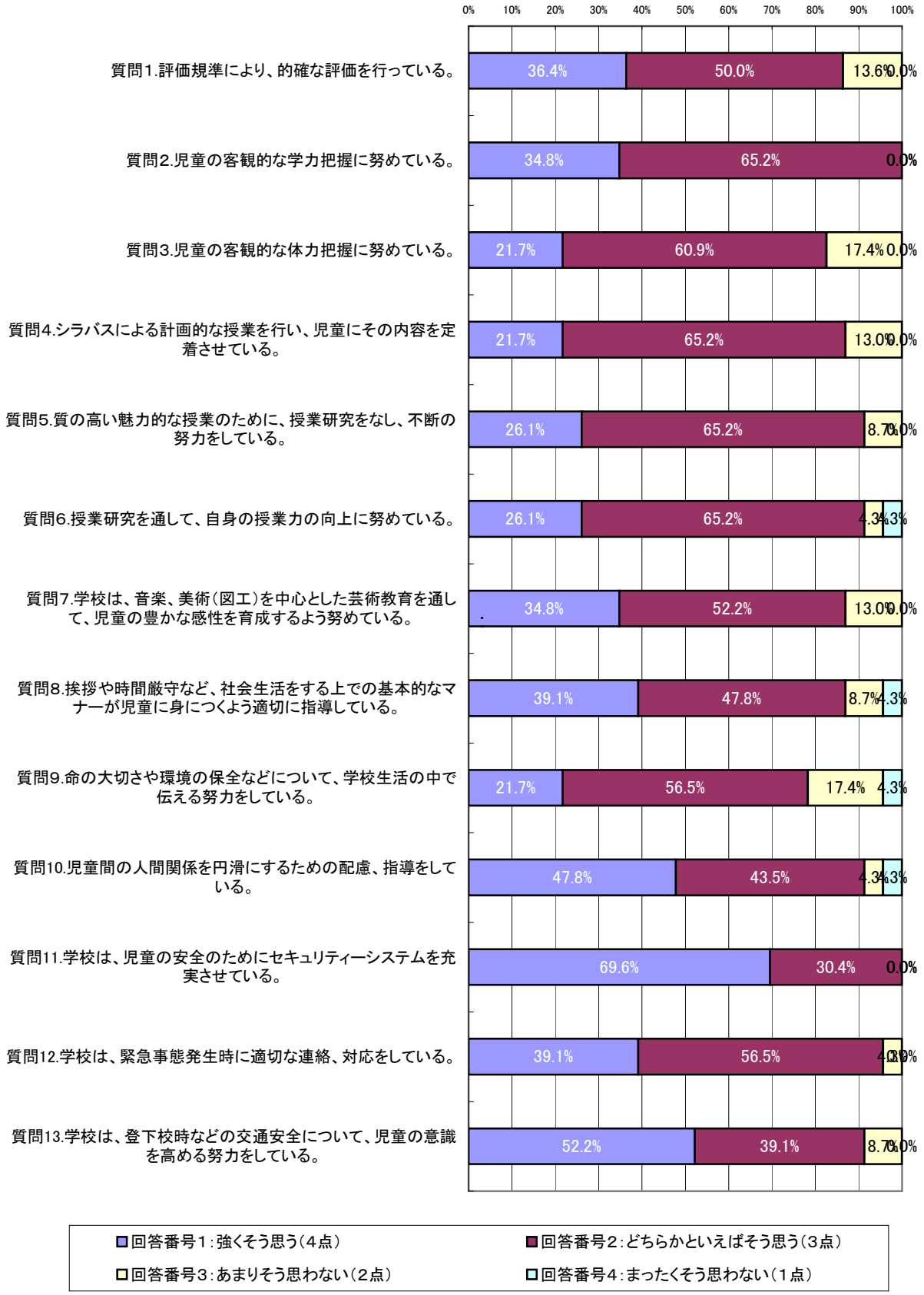
2010年度　学校評価アンケート結果一覧表（初等部）

共通／独自	大項目	小項目	目標	アンケート						選択肢（児童用）
				教職員用	平均点	保護者用	平均点	児童用	平均点	
共通	３．生徒指導	（1）社会の一員としての意識についての指導	挨拶や時間厳守など、社会生活をする上での基本的なマナーについて指導する。	８．挨拶や時間厳守など、社会生活をする上での基本的なマナーが児童に身につくよう適切に指導している。	3.2	９．学校は、集団生活に関するルールやマナーについて適切な指導をしている。 10．学校は、思いやりのある言葉づかいで話し、しっかりと挨拶ができるように指導している。	3.3 3.1	６．学校のきまりを守って生活していますか。 ７．だれにでも元気よくあいさつをしていますか。	3.0 3.5	よくできている／できている／あまりできていない／できていない よくできている／できている／あまりできていない／できていない
		（2）命の大切さや環境の保全などについての指導	命の大切さや環境の保全など、社会の中で生きる上で大切なことについて指導する。	９．命の大切さや環境の保全などについて、学校生活の中で伝える努力をしている。	3.0	11．学校は、命の大切さや環境の保全などについて、礼拝や授業などを通して学ばせている。	3.4	８．こころの時間や授業などで、命の大切さや人間として大切なことを学ぶことができますか。	3.4	とてもできる／できる／あまりできない／できない
		（3）豊かな人間関係づくりに向けた指導	豊かな人間関係づくりのために、適切な指導を行う。	10.児童間の人間関係を円滑にするための配慮、指導をしている。	3.3	12．学校は、子ども同士の人間関係に配慮しながら指導している。	2.9	９．思いやりのある友だちが多いですか。 10．友だちが困っていたら、助けてあげていますか。 11．友だちの意見や考えをよく聞いていますか。 12．相手の気持ちを考えて行動することができますか。	3.2 3.3 3.3 3.1	とても多い／多い／あまり多くない／多くない よくできている／できている／あまりできていない／できていない よく聞いている／聞いている／あまり聞いていない／聞いていない よくできる／できる／あまりできない／できない
共通	５．安全管理	（1）学校事故等の緊急事態発生時の対応	児童の安全のために学校のセキュリティーシステムを充実する。	11.学校は、児童の安全のためにセキュリティーシステムを充実させている。	3.7	13.学校は、児童の安全のためにセキュリティーシステムを充実させている。	3.6	13.学校では安心して生活することができますか。	3.4	とてもできる／できる／あまりできない／できない
			緊急事態発生時に十分な対応をする。	12.学校は、緊急事態発生時に適切な連絡、対応をしている。	3.3	14.学校は、緊急事態発生時に、保護者に迅速に連絡し、適切な対応をしている。	3.4	―		
		（2）安全点検や、教職員・児童の安全対応能力の向上を図るための取組	登下校時などの交通安全について折に触れ児童の意識を高める。	13.学校は、登下校時などの交通安全について、児童の意識を高める努力をしている。	3.4	15.学校は、登下校時などの交通安全について、児童の意識を高める努力をしている。	3.4	14.登下校の交通安全について、学校の先生から大切なことを教えてもらっていますか。	3.5	よく教えてもらっている／教えてもらっている／あまり教えてもらっていない／教えてもらっていない
			防災訓練を実施し、児童の防災・安全意識と災害への対応力を育成する。	14.学校は、必要な防災訓練を実施し児童の防災・安全意識と災害への対応力を育成している。	2.9	16.学校は、必要な防災訓練を実施し児童の防災・安全意識と災害への対応力を育成している。	3.3	15.避難訓練では、先生の指示に従って、安全に避難することができますか。	3.7	とてもできる／できる／あまりできない／できない
共通	８．研修（資質向上の取組）	（1）授業研究の継続的実施など、授業改善の取り組み	授業研究を継続的に実施し、授業改善に取り組む。	15.学校は、教員研修プログラムを設定し、教員相互の授業研究の機会を十分に提供している。	3.0	―	―	―	―	―

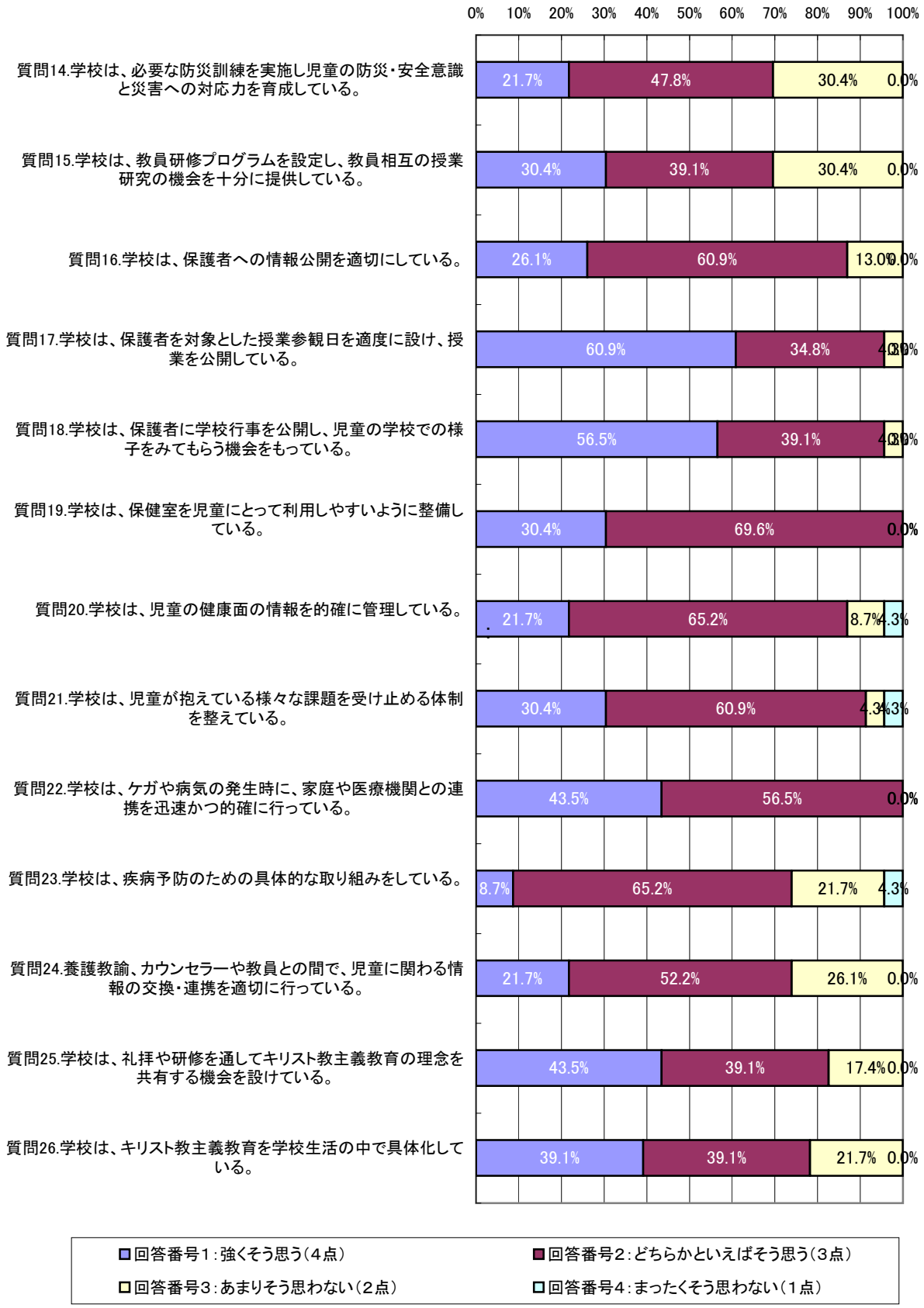
2010年度　学校評価アンケート結果一覧表（初等部）

共通／独自	大項目	小項目	目標	アンケート						選択肢（児童用）
				教職員用	平均点	保護者用	平均点	児童用	平均点	
共通	10. 情報提供	(1) 学校に関する様々な情報の提供	学年だよりやホームページ等を通して、保護者に学校の情報を提供する。	16.学校は、保護者への情報公開を適切にしている。	3.1	17.学校は、保護者への情報公開を学年だよりやホームページ（親子スクエア等）を通して、適切にしている。	3.2	—	—	—
		(2) 学校公開の実施の状況	授業参観日を設け、授業公開を計画的に行う。	17.学校は、保護者を対象とした授業参観日を適度に設け、授業を公開している。	3.6	18.学校は、授業参観日を適度に設け、保護者に授業を公開している。	3.4	—	—	—
			学校行事を保護者に公開し、児童の学校での様子を見てもらう機会をもつ。	18.学校は、保護者に学校行事を公開し、児童の学校での様子をみてもらう機会をもっている。	3.5	19.学校は、保護者に学校行事を公開し、児童の学校での様子をみてもらう機会をもっている。 20.学校行事は保護者に参加しやすいように、日程等が配慮されている。	3.4 3.1	—	—	—
独自	4.保健管理	(1) 児童を対象とする保健に関する体制整備や指導・相談の実施	・保健室を、児童に利用しやすいように整備する。 ・児童の健康面の情報を的確に管理する。 ・児童の様々な相談を受け止める体制を整える。	19.学校は、保健室を児童にとって利用しやすいように整備している。 20.学校は、児童の健康面の情報を的確に管理している。 21.学校は、児童が抱えている様々な課題を受け止める体制を整えている。	3.3 3.0 3.2	21. 学校は、子どもの心身の健康について把握し、疾病予防のための具体的な取り組みをしている。	3.0	16. 心配(しんぱい)ごとができたら、先生に相談(そうだん)できますか。	2.4	すぐできる／できる／ あまりできない／できない
		(2) 家庭や地域の保健・医療機関等との連携	ケガや病気の発生時に、家庭や医療機関との連絡を迅速に行う。	22.学校は、ケガや病気の発生時に、家庭や医療機関との連携を迅速かつ的確に行っている。	3.4	22. ケガや病気の発生時に、学校は家庭への連絡をきめ細かに行っている。	3.3	—	—	—
		(3) 日常の健康観察や、疾病予防、児童の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断の実施	・健康診断を定期的に実施する。 ・疾病予防のための取り組みを具体的に行う。 ・養護教諭と教員間で情報交換・連携を行う。	23.学校は、疾病予防のための具体的な取り組みをしている。 24.養護教諭、カウンセラーや教員との間で、児童に関わる情報の交換・連携を適切に行っている。	2.8 3.0	23. 学校は、子どもの心身の健康について気軽に相談できる環境を整えている。	3.1	—	—	—
独自	キリスト教主義教育	(1) キリスト教主義教育の理念の共有	教職員間でキリスト教主義教育の理念を共有する。	25.学校は、礼拝や研修を通してキリスト教主義教育の理念を共有する機会を設けている。	3.3	24. 学校は、キリスト教主義教育の理念について、保護者と共有する機会を設けている。	3.3	17. こころの時間や聖書(せいしょ)の勉強(べんきょう)は大切なことだと思いますか。	3.4	とても思う／思う／ あまり思わない／思わない
		(2) キリスト教主義教育の推進	キリスト教主義教育を学校生活の中で具体化する。	26.学校は、キリスト教主義教育を学校生活の中で具体化している。	3.2	25. 学校は、キリスト教主義に基づき、人を思いやる気持ちや態度を育てている。	3.3			

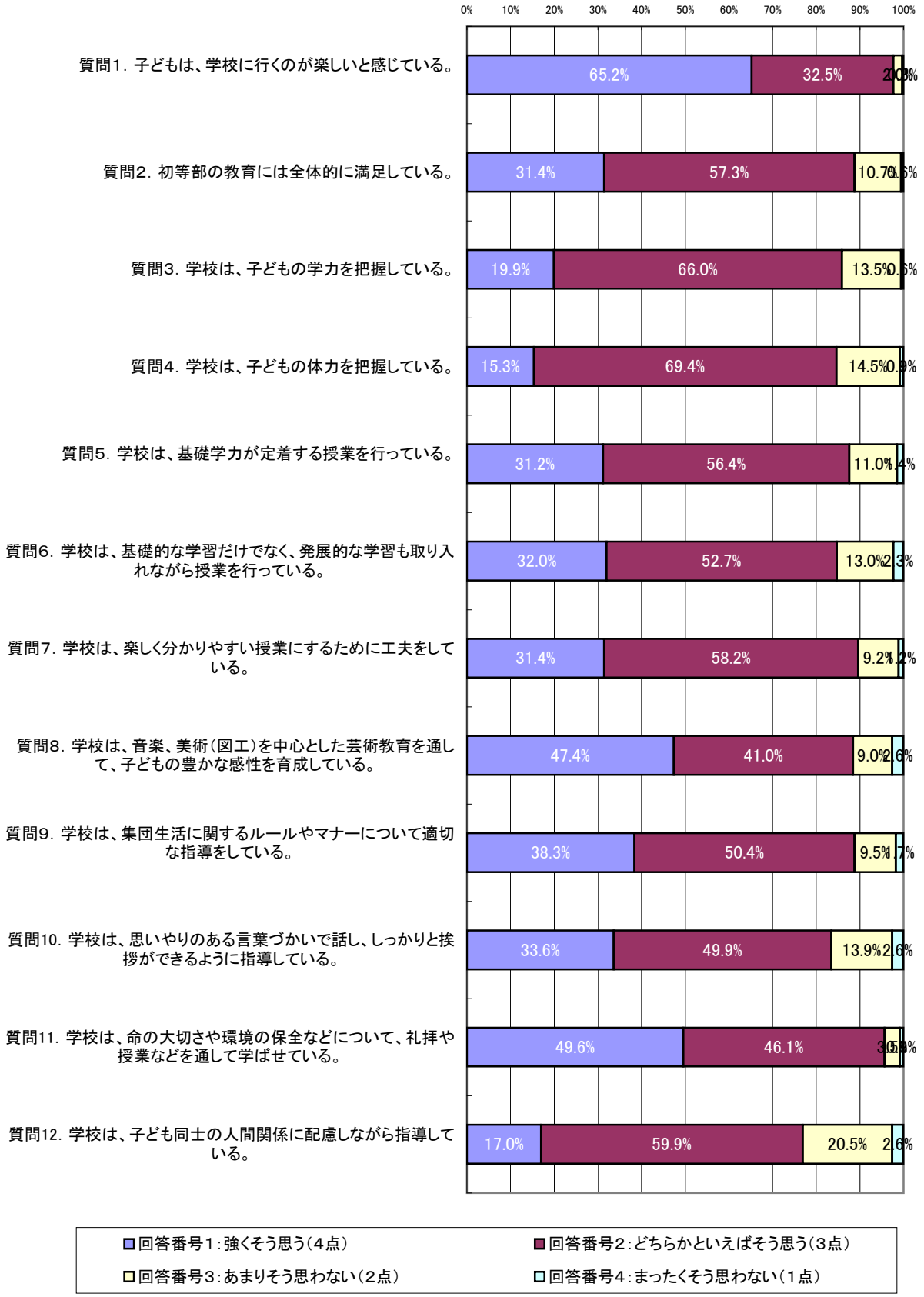
2010年度 学校評価アンケート集計結果
（初等部・教員　質問1～13）



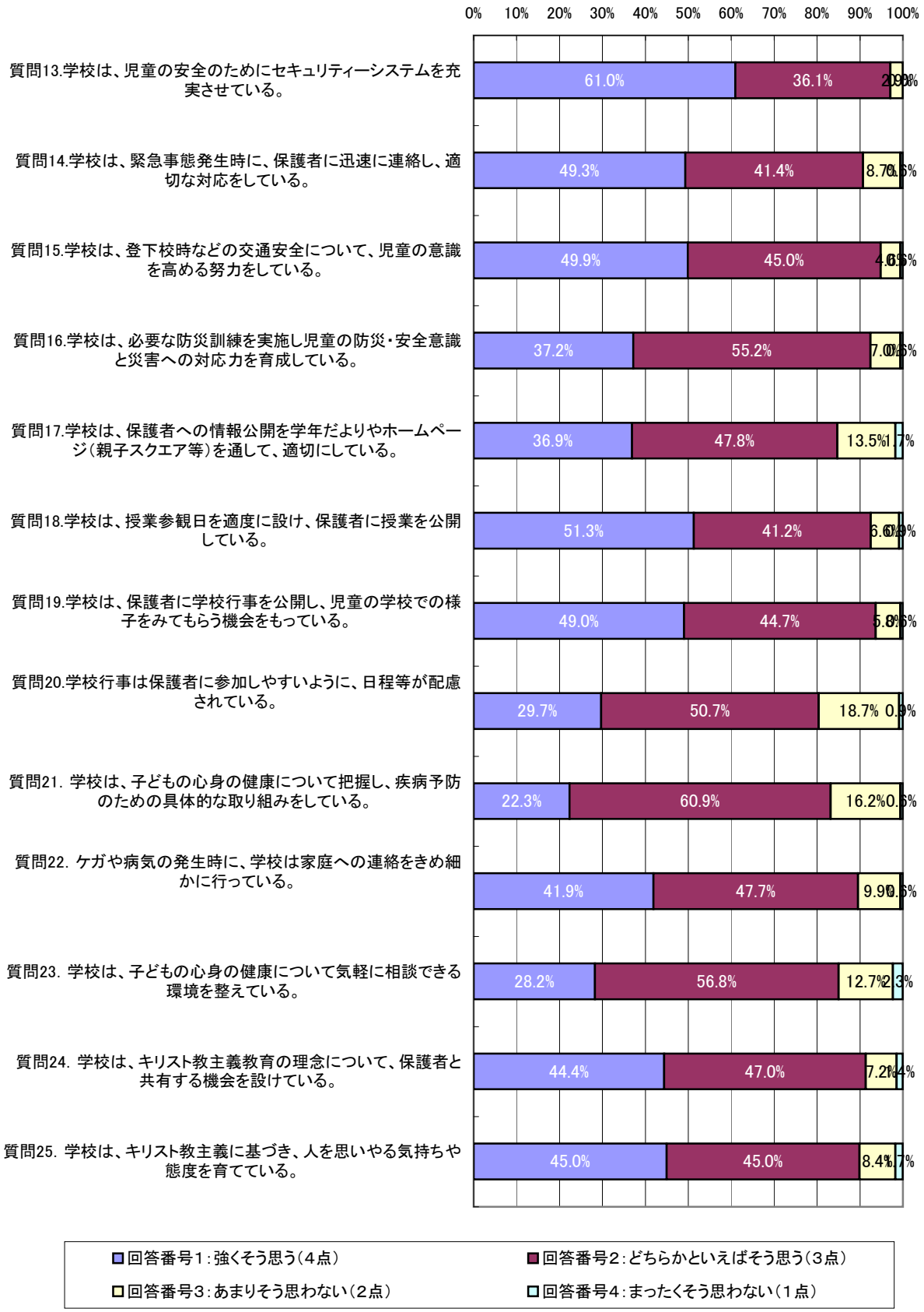
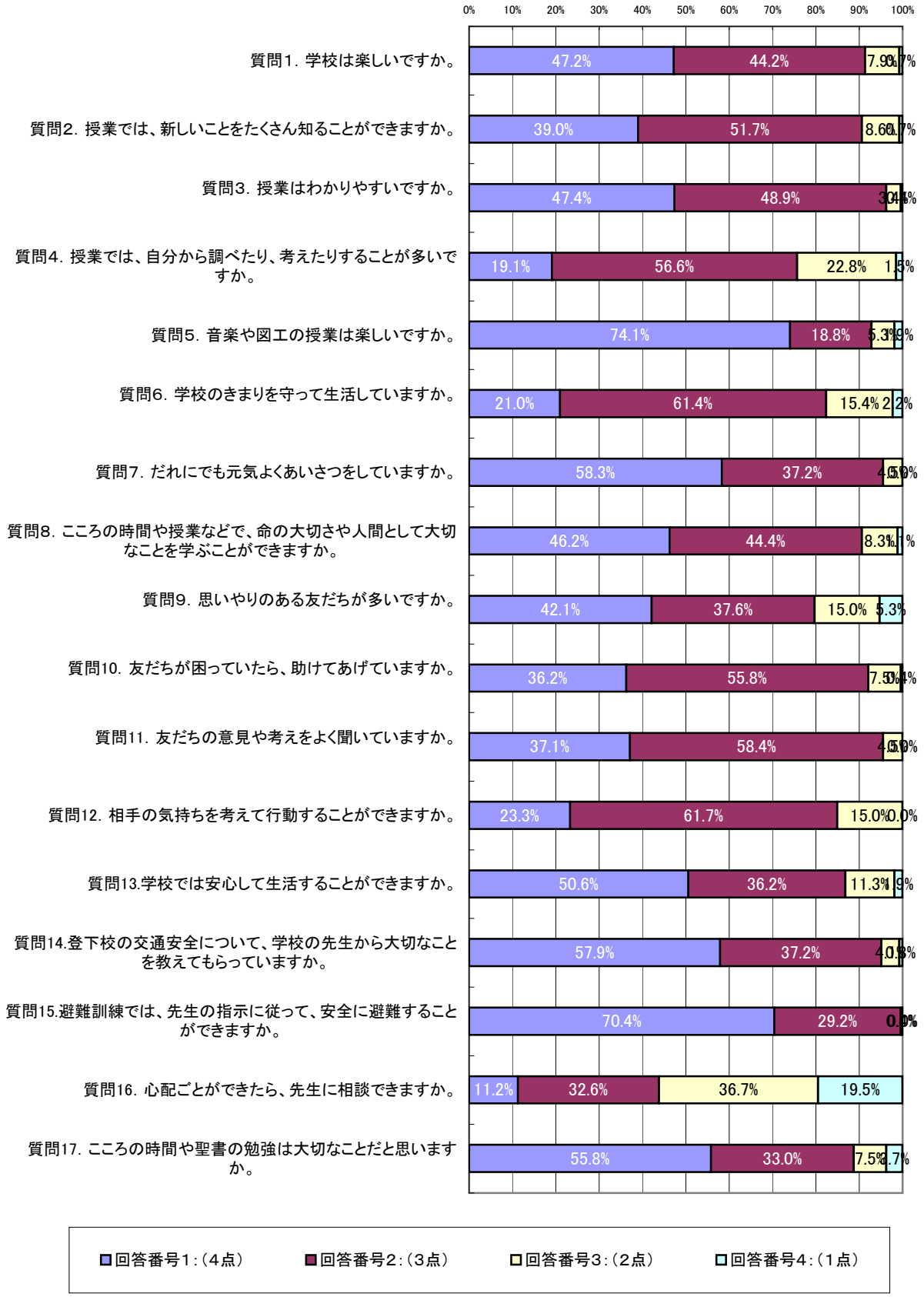
2010年度 学校評価アンケート集計結果
（初等部・教員　質問14～26）



2010年度 学校評価アンケート集計結果
（初等部・保護者　質問1～12）



2010年度 学校評価アンケート集計結果
（初等部・保護者　質問13～25）



2010年度 学校評価アンケート集計結果
（初等部・児童）